

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100435		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	グループホーム すずらん大山田		
所在地	三重県桑名市大山田2丁目7番地11		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100435-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100435-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 25 年 12 月 9 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに池や散歩道、公園がある閑静な住宅地の中に位置し、一般住宅風の外観で、デイサービスが併設されており、地域の方々との交流を楽しんでおられます。一人ひとりが、その方らしく過ごせるよう、心のこもったサービス提供ができるよう努めております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

団地住宅街の一角に、外観は近隣の住宅と変わらない感じの二階建て建屋をデイサービスと共に運営しているグループホームである。事業開始から13年目を迎えており、近隣との交流も多くなり地元の生活に合った暮らしが提供されている。居室は当初から二階の6部屋であり、日中はデイサービスを利用している方と一緒に過ごしており、トイレやお風呂も共同利用となっている。食事は長年担当の職員が、利用者の状態を考慮しながら安価で美味しく、基礎代謝量を基に栄養バランスを考え、デイサービス利用者の方と共に提供している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳を常に考え、自由な環境を作り、その方らしい生活が続けられるような理念に基づき実践している	安心して生活ができる様に、その人の希望に沿った支援を心がけ、枠に捉われない事を職員で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや清掃活動に参加したりして、地域の方との交流を行っている	地区の自治会に加入し回覧の提供を受け、清掃活動やその他のイベントに参加している。日常的には、散歩の機会に挨拶をしながら交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で話をさせて頂いたり、見学者や御家族からの質問等に研修や実践を踏まえたアドバイスをを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催し、現況報告をすとも、出席者からの助言、情報をサービス向上に活かしている	自治会長の参加は無いが、市役所や包括支援センターの職員、民生員等の出席を得て、年6回の開催が定期的実施されており、防災訓練の方法等の助言を実施に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で助言を頂いたり、更新申請の代行で市役所に出向いたり等、協力関係を築くように取り組んでいる	介護申請代行や、家族からの依頼による生活保護に関する手続きや情報を得る為、市の介護高齢福祉課に行き協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修において、身体拘束をしないケアを理解し、実践に向けて取り組んでいる	デイサービスの職員を含め、年間の研修計画の中で身体拘束排除に関する研修を行い、マニュアルを基に職員で意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開いて虐待防止の意識を高め、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、権利擁護や成年後見制度の利用について検討会を開催するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の内容を解りやすく説明し、家族の方の理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの意見、要望については、管理者、職員間で共有し改善に努めている	6名の家族は面会の機会も多く、その際には管理者を中心に意見や要望を聴いており、内容に基づきケア会議で職員間の共有を図っている。面会の少ない家族には、事業所の行事予定と利用者の近況を電話等で話している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、各棟の責任者による定例会議において意見、情報交換をしている。又、必要に応じて、話し合いの場を設けている。	利用者一人ひとりの状態や支援の内容を共有する為のケア会議と、事業所全体の運営に関する話し合いを行う職員会議を兼ね実施している。職員の意見を反映する自己評価は、職員の意見も含め管理者が作成している。	自己評価は、日頃の支援の実態を利用者一人ひとりを思い浮かべながら「気づき」を確認出来るツールであり、積極的に有効利用する事が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や個々の労働状況を把握した勤務体制をとり、職員が働きやすい職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各事業所との連携に努めている。勉強会、施設長会議等を定期的に開催する等してサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とコミュニケーションをとることで早期にその方の意思や心境を確認している。意思疎通が困難な方は家族等からの情報をもとに安心して生活ができるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安な事や要望を随時、聴き、支援ができるよう信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と家族のような関係を築き、常に思いやりの心で接するよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が連携して利用者を支え合い支援していけるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会に来て頂けるような雰囲気作りや家族による外出、外泊等を勧めている	利用者の知人が来所される時もあり、気軽に訪問出来る様な雰囲気に心がけている。デイサービス利用者との交流で馴染みの関係が出来ている方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話やレク活動でのゲーム等が楽しめるよう職員が手助けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当なし 今後、有った場合は、必要に応じて、本人、家族の状態や今後のサービス利用における相談を考えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から会話をすることにより、利用者との距離を縮め、一人ひとりの思いや希望を聞いて意思の把握に努めている	利用者一人ひとりの変化を把握して出来る事の支援を心がけ、本人のペースに合わせた暮らしの支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	平成24年から平成25年11月現在、新しく入所された方はいないが、利用者の入れ替えがある場合は、申し送りが出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを徹底し、利用者の心身状態、その他気づいた事は、情報交換して現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士では日頃から話し合いを行っている。 本人・家族と話し合い、それぞれの意向を反映し、現状を踏まえた介護計画を作成している	基本的には3ヶ月毎に見直しており、介護レベルの変化に応じて随時見直している。短期目標に基づく支援内容の実施状況は、支援内容の項目毎に実施時期に合わせたモニタリングが確実に実行されており、家族の確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌に日々の様子や気づいた事を記録し、職員間で情報を共有しながら計画の見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物に同行して、利用者が自分で買い物が出来るよう、お手伝いをしたり、気分転換を図ったり、季節感を味わっていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な人形劇や大正琴のボランティアグループの訪問により、楽しみを持って頂いている。又、低料金での訪問美容室が来所している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、近くの病院から往診に来ていただき、医師と利用者の信頼関係ができています	6名全員が事業所の協力医を利用しており、4週間に一度の頻度で往診を受けている。専門医や急変時には事業所が送迎して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師との連携に努め、緊急時対応、夜間対応及び機能訓練相談業務を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携を図り、ご家族の希望を優先にし、早期退院ができるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点で家族とは終末期に対する考えを話し合っている。また、終末期になった場合は法人内で、看護師がいる施設へ移動していただくことを家族に説明している	重度化や終末期の事業所としての「指針」は無いが、契約時には事業所としての対応について家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時に緊急時対応時のマニュアルを参考に研修を行い、AEDの使い方を徹底している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのもと、入所者、職員全員で避難訓練を行っている。又、警報が出された際は、自治体等、近隣の協力が得られるようお願いしている	地震・火災の災害時に於ける訓練は、避難や消火・通報等について夜間想定も含め、年3回実施している。避難訓練は事業所の屋外への避難を想定している。	地震や事業所自体の火災、近隣からの延焼による火災も想定して、市が指定している避難所を確認して、そこまでの道路状態についても確認しておいて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を開き、言葉がけや対応に関して、利用者の尊厳やプライバシー保護を念頭に置き、その大切さを確認している	事業所の研修計画に基づく「プライバシー保護」の研修が実施され、個人の情報は外で話さない事等が職員間で確認されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を聞かせて頂けるような雰囲気作りをし、その実現に向けて支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、その人に合った過ごし方が出来るよう、職員は心にゆとりを持って接するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人、又は職員による、ひげ剃りや整髪その他、定期的に訪問美容室も来ている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやおしぼりの準備等、簡単なお手伝いをお願いしている	食器は陶器を使い、専任の職員が自分で買い物をすると共に利用者の状態を考慮した献立をし、盛り付けには「色取り」を考えながら楽しみとなる工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態により、普通食、刻み食、ミキサー食にして、摂取量を毎食、記録している。又、水分補給にも注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや誘導により、歯みがき等の口腔ケアを行い、食物が口の中に残らないよう気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を用いて、個々の排泄パターンを把握し、誘導や声かけを行い、出来るだけ、トイレで排泄が出来るよう支援している	夜は2名の方が「おむつ」を利用しているが、昼間は紙パンツで「声かけ」をしながらトイレ誘導をして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や繊維質の多い食品の提供をし、必要に応じて、医師、看護師の指示のもと、下剤の服用をしていただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や状況、体調に合わせて、柔軟な対応をしている	浴室はデイサービスの方との共有となっており、車椅子利用者対応のシャワー設備が設置されている。入浴順番は基本的にはグループホームの方が先に利用し、週3～4回程度の回数となっているが要望や状態に応じて柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や事業所内の看護師との連携により、一人ひとりが安心して服薬できるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と共に家事をしたり、居室の模様替えをしたりと一人ひとりの能力に合わせ、役割や楽しみを作ったりして気分転換等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な屋外の散歩の他、年1回の家族参加の花見等、戸外に出かけられるよう支援している。又、家族による個人的な外出も家族との連携により実施している。	日常的な外出としては、デイサービス利用者との兼ね合いから日曜日を外出の機会として、近くを散歩している。平日の外出は家族の対応が多く、年一度の家族と共に花見に行く機会を設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の預かり金で買物の代行をし、施設で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りの希望があれば、間違いのないよう職員がお手伝いをし、目的が達せられるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、皆で作ったその季節の貼り絵、リビングには習字やぬり絵等の作品を飾って居心地の良い空間作りに努めている	食堂兼居間はデイサービスの方との共同利用となっており、日当たりも良く広いが大人数の為狭く感じる。利用者が作った「ぬり絵」や職員の指導による「習字」の作品が飾られ、家族や来所者の話題提供となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが利用者同士の交流の場となっており、自由に過ごすことができる空間になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作った作品を飾ったり、ご家族の写真や飾りなどを自宅にくつろいで頂いている雰囲気作りをしている	昼間は一階で過ごす為、夜寝る場所としての居室の利用となっており、ベッド・テレビ・エアコンは事業所の設置となっている。それぞれが好みの物が持ち込まれ、「くつろげる」雰囲気が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全が確保されていて、居室は一人ひとりに合わせた家具の配置をしている		